

「お母さんの大変さを知らないでしょ。」

夏休みに「一日お母さん」をやってみることにした。理由は、普段当たり前のように洗濯をしてくれたり、毎日ご飯を作ってくれたり、部屋の掃除をしてくれているから、私も一日だけやってみようと思っただけだ。

まず、六時に起きる。しかし、私はとても眠たくて起きられず、六時半に起こしてもらった。普段と起きる時間が違うから、とても眠たかった。起きた後は、すぐに洗濯を回して、キッチンへ向かった。

キッチンへ向かうと、昨日洗った食器を食器棚にしまい、朝ご飯の準備をした。卵やウインナーを焼いたり、ご飯をよそったり、お茶を準備して朝ご飯を食べた。その途中にお母さんから「とても上手だね。」

とすぐほめられて、うれしくなった。ご飯を食べた後は、使った食器やフライパンを洗った。皿が多くて、バランスが崩れそうだった。洗剤が傷口にしみた。こんなこともあるのか。その後は、洗濯物を外に干した。朝から早く起きて、こんなにやる事があるなんてお母さんは大変だと思った。その後、ごみ捨てもやった。私は、好きな時にお茶を飲んだり、ご飯を準備してもらったり、たんだである洗濯物を着たり、当たり前のように毎日を過ごしていたけれど、自

分が家事をする側になって、大変さを知った。

少し休けいしたら、もうお昼ご飯を作る時間だ。お昼ご飯は、うどんを作った。お湯をわかして、めんを入れて、柔らかくなったら氷水に入れて冷やした。つゆも用意して、みんなで食べた。

「上手にできたじゃん。おいしいよ。」

とお母さんが言ってくれた。そういえば、私は、いつも「いただきます」や「ごちそうさま」は言うけれど、「おいしい」とはあまり言わないなと思った。言ってもらえるとうれしいので、これからは、もっと「おいしい」と伝えようと思った。家事をしていたら、午前があつという間に終わってしまった。いつもなら自分の好きなゲームをして過ごしているのに、家事をやっていたから自分のやりたい事があまりできなかった。お母さんはやりたい事がまんして家事をやっているのかなあと気になって聞いてみた。

「お母さんは、やりたい事がまんして毎日家事をしているの？」
聞いてみたら

「やらなきゃいけないことがあるからね。でも、家事が全部終わった夜に好きな事をするよ。」
と言った。

午後は、少しだけ休けいしてから朝に干した洗濯物を部屋に取り込んで、たんだ。たんだ物を全てしまったら、次は夕飯の準備を始めた。私は思った。(また、ご飯の準備をするの?) さっきお昼ご飯を作ったばかりだと思ったのに。夕飯は、カレーになった。お米を洗って、炊飯器にセットした。それから野菜とお肉を切って炒めて、二十分煮込んだ。最後にルーを入れて、やっと完成した。みんなが

「おいしい！」

と言ってくれた。食器を洗って、布団を整頓して、寝る準備をした。やっと自分の時間になった時、(こんな一日やっただけで大変なのに、お母さんはこれを毎日やっているのか。仕事もしながら大変だな。) と思った。私が、毎日好きな時間に好きな事ができたり、待っていればご飯が用意されていたり、きれいにたたんだ服をそのまま着れたりするのは、私が見ていないところで、お母さんが全部やってくれていたからなんだということを改めて知ることができた。正直、めんどくさいことが多かつたし、途中やめたくなることばかりだった。でも、お母さんは毎日やっている。

それから私は、いつもの自分の手伝いの仕事+洗い物をしたり洗濯物をたたんだりするようになった。「ありがとう」や「いただきます」も意識して言っている。お母さんの休む時間が増えて、私もうれしい。

今までお母さんに「手伝って」と言われ、とてもめんどくさいと思っていたし、「ひまなら遊ぼう。」と言うことも多かつた。これからは自分から手伝いをやってみようと思った。そうしたらお母さんの好きな事をやる時間や休める時間を少しでも増やしてあげられるから。一緒にゲームをしたり昼寝をしたりできるだろうな。お母さんはいつも朝早くから起きて、私たちの朝ごはんから夜ご飯まで作ってくれて一日の時間がとても早く過ぎちやうのかなと思った。

お母さんの大変さを知ったから、これからはもっと「ありがとう」「いただきます」「おいしいよ」を言おうと思う。お母さん、いつもありがとう。